

第 84 回 愛媛県内企業動向アンケート調査結果

- 2014 年度上期実績及び 2014 年度下期見通し -

【調査要領】

- 1 調査目的：愛媛県における企業の経営実態と景気動向の把握
- 2 調査対象：愛媛県内に事務所を置く企業
- 3 調査方法：郵送によるアンケート調査
- 4 調査時期：2014 年 10 月中旬
- 5 調査期間：前期実績 2014 年度上期（2014 年 4 月～2014 年 9 月）
当期見通 2014 年度下期（2014 年 10 月～2015 年 3 月）
- 6 調査項目：業況についての総合判断、売上高、収益、雇用の動向、
設備投資の動向、経営上の問題点等

【回答状況】

業種		調査企業数 (社)	回答企業数 (社)	回答率 (%)	構成比 (%)
全産業		665	337	50.7%	100.0%
製造部門	製造業	121	78	64.5%	23.1%
	建設	105	48	45.7%	14.2%
	農林水産業	73	11	15.1%	3.3%
非製造部門	卸売業	82	32	39.0%	9.5%
	小売業	52	34	65.4%	10.1%
	不動産業	22	7	31.8%	2.1%
	運輸・通信業	60	47	78.3%	14.0%
	サービス業	150	80	53.3%	23.7%

2014 年度上期の業況判断 DI は悪化した。

2014 年度下期は改善する見通し。

- ・2014 年度上期の日本経済は、消費税率引上げによる駆け込み需要の反動が大きく、四半期 GDP は 4～6 月期・7～9 月期の 2 四半期連続でマイナスとなった。
- ・2014 年度上期の業況判断 DI は、全産業ベースで 7 となった。2013 年度下期の業況判断 DI 25 と比較すると 18 ポイント減少しており、県内企業の業況は悪化している。
- ・2014 年度下期の業況判断予想 DI は 12 と、2014 年度上期と比べ小幅ながらも改善する見通し。

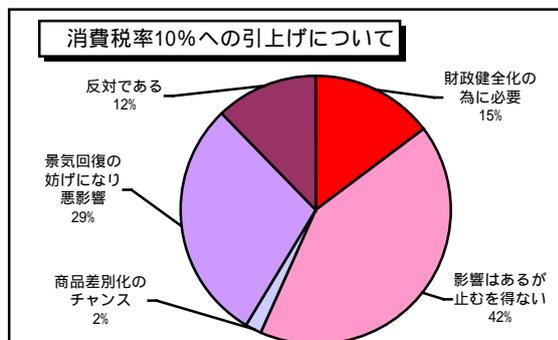
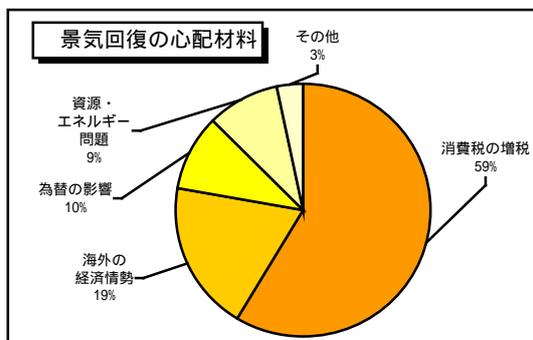
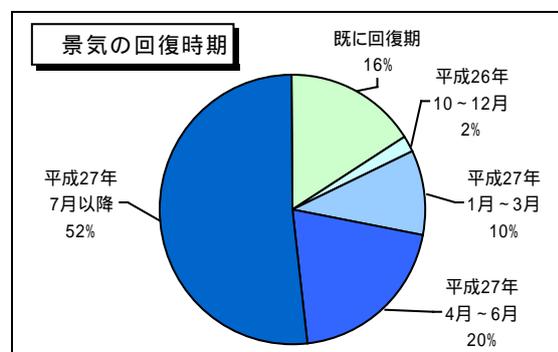
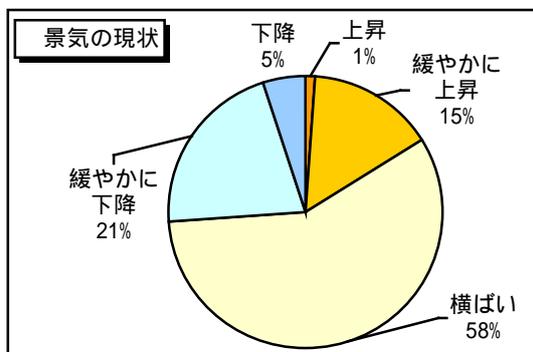
【特別質問】

[景気の現状] - 「上昇」「緩やかに上昇」と答えた割合が 16%で、前回 (42%) と比べ上昇傾向にあると答えた割合が大きく減少している。

[景気の回復時期] - 「既に回復期」が 16%と、前回 (21%) を下回った。「平成 27 年 7 月以降」が 52%と最も多く、景気の回復はまだ先とする見方が強い。

[景気回復の心配材料] - 「消費税の増税」が 59%で最多となった。

[消費税率 10%への引上げについて] - 「財政健全化のために必要」が 15%、「景気への影響はあるが止むを得ない」が 42%、「商品差別化のチャンス」が 2%と、合わせて 59%の企業が消費税率 10%への引上げに対して受け入れを示す回答をした。



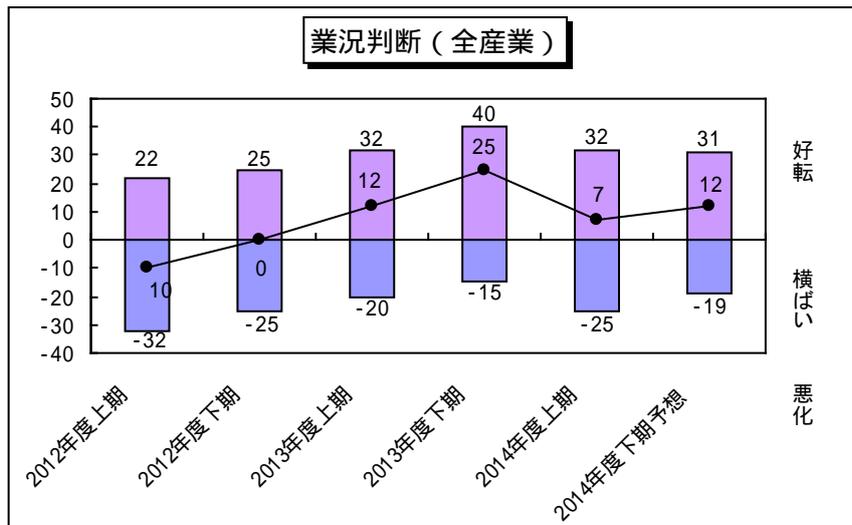
業況判断 ~ 2014 年度上期は悪化、2014 年度下期は改善の見通し ~

2014 年度上期の業況判断 DI は 7 と、2013 年度下期と比べて悪化した。

業種別にみると、製造部門では「農業」「一般機械」「電気機械」「建設業」が、非製造部門では「飲食業」「海運業」「宿泊業」「不動産業」が改善した。

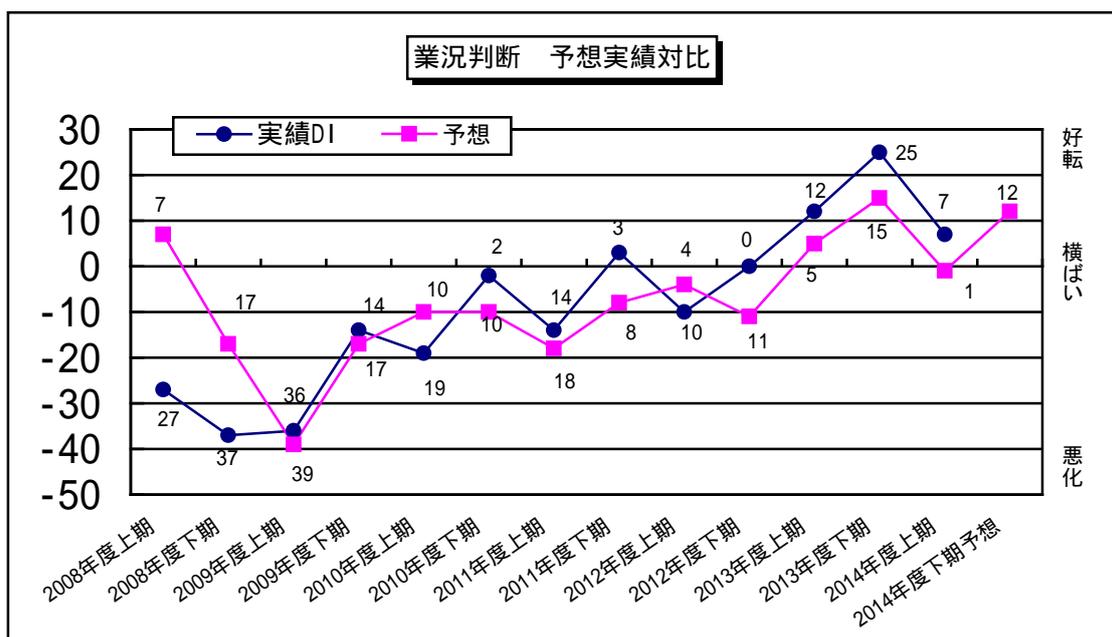
2014 年度下期予想 DI は 12 と、2014 年度上期と比べて小幅ながらも改善する見通し。製造部門では「木材・木製品」「金属製品」「窯業・土石」が、非製造部門では「陸運業」「小売業」が改善予想。

< 図表 1 業況判断 DI >



DI は、業況判断が「好転」企業の割合 - 「悪化」企業の割合

< 図表 2 業況判断 予想実績対比表 >



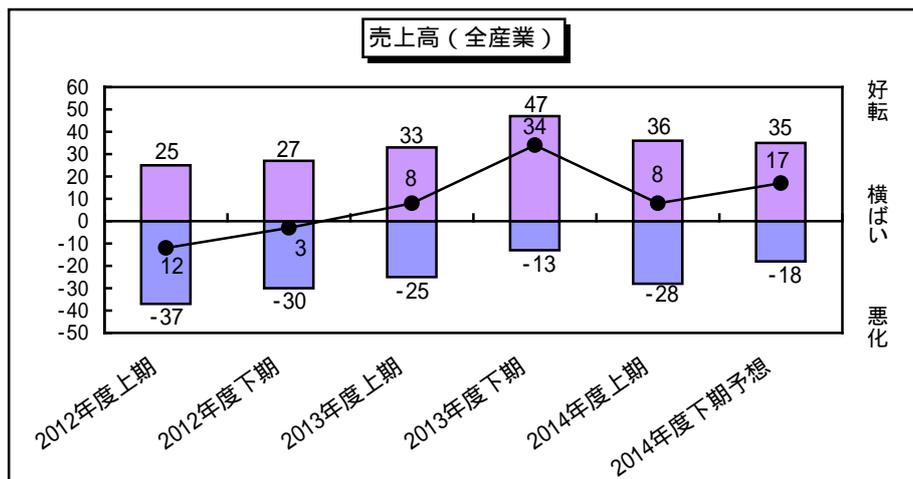
売上高～2014年度上期は悪化、2014年度下期は改善する予想～

2014年度上期の売上高DIは8と、2013年度下期と比べ悪化した。

製造部門では「農業」「一般機械」が、非製造部門では「飲食業」「宿泊業」が改善した。

2014年度下期予想DIは17と、改善する見通し。製造部門では「木材・木製品」「金属製品」「食料品」が、非製造部門では「陸運業」「卸売業」「小売業」が改善予想。

<図表3 売上高DI>



DIは、売上高が「増加」企業の割合 - 「減少」企業の割合

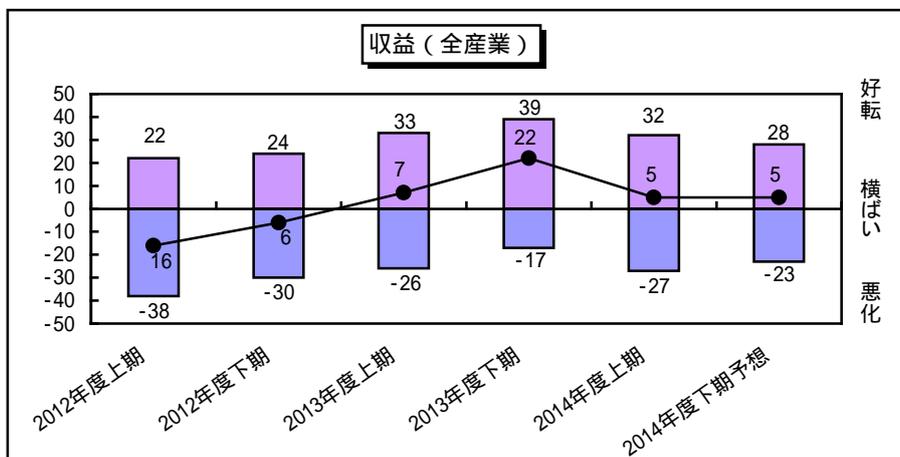
収益～2014年度上期は悪化、2014年度下期は横ばい予想～

2014年度上期の収益DIは5と、2013年度下期と比べて悪化した。

製造部門では「一般機械」「農業」「建設業」が、非製造部門では「海運業」「飲食業」「陸運業」「宿泊業」が改善した。

2014年度下期予想DIは5と、横ばいに推移する見通し。製造部門では「木材・木製品」「窯業・土石」が、非製造部門では「不動産業」が改善予想。

<図表4 収益DI>



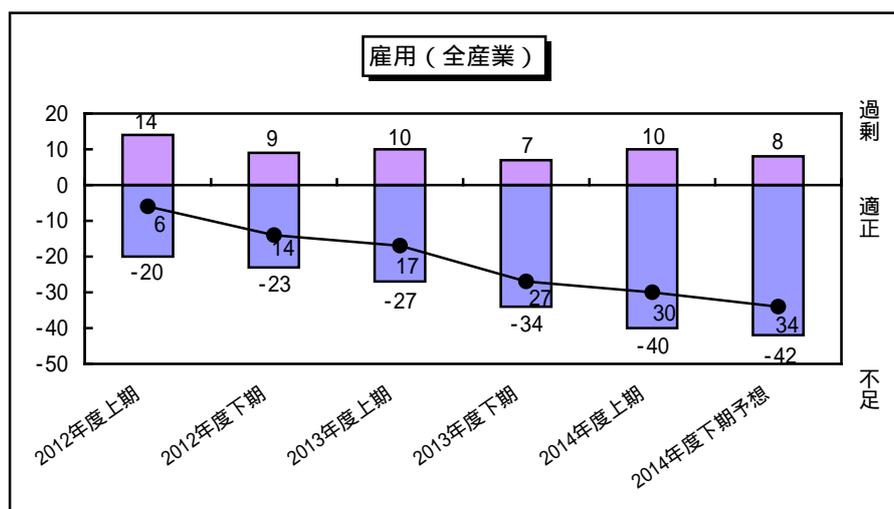
収益が「増加」企業の割合 - 「減少」企業の割合

雇用 ~2014 年度上期は不足状態、2014 年度下期も不足が続く見込み~

雇用は 2010 年度下期から不足状態が続いている。2014 年度上期の雇用 DI は 30 と、2010 年度下期以降で雇用の不足感が最も強くなった。製造部門は「建設業」「窯業・土石」「農業」「食料品」、非製造部門では「海運業」「陸運業」「福祉」「飲食業」で、特に不足の度合いが強まった。

2014 年度下期予想 DI は 34 と、さらに不足が進む見通し。製造部門では「金属製品」、非製造部門では「小売業」「卸売業」で、さらに不足が予想される。

<図表 5 雇用 DI>



雇用が「過剰」企業の割合 - 「不足」企業の割合

設備投資 ~2014 年上期は 41%の企業が実施、2014 年度下期も横ばい~

2014 年度上期の全産業の設備投資は 41% (2013 年度下期比 1%) の企業が実施した。部門別では、製造部門で増加した。

2014 年度下期の全産業の設備投資計画は 42% (2014 年度上期比 +1%) の企業が予定しており、製造部門で大きく増加を見込んでいる。

<図表 6 設備投資の実施状況>

	2012	2012	2013	2013	2014	2014
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
	実績	実績	実績	実績	実績	見通し
全産業	35%	41%	41%	42%	41%	42%
製造	36%	36%	45%	41%	43%	48%
非製造	35%	43%	38%	43%	40%	38%

2014 年度上期の設備投資の内訳をみると、2013 年度下期に引き続き、古くなった「既存設備の補修」や、「効率化」「増産」など、合理化や能力補強のための投資が目立つ。

[設備投資を「実施した」と答えた企業割合が 50%以上であった業種]

製造部門 ...一般機械、印刷、食料品、輸送機械

非製造部門...不動産業、陸運業、飲食業、医療関係、宿泊業

[設備投資を「実施した」と答えた企業割合が 30%未満であった業種]

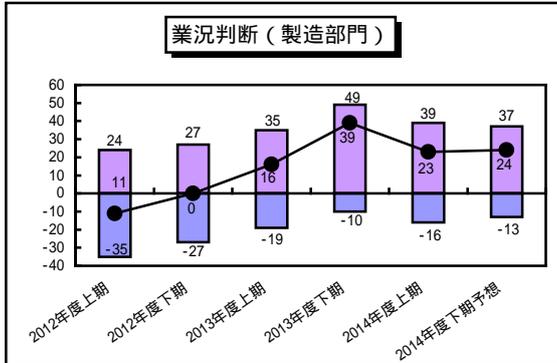
製造部門 ...木材・木製品、電気機械、水産業、建設業

非製造部門...小売業

【内訳】

1. 業況判断

(1) 製造部門



[上期 DI] 23(「好転」39、「悪化」16)となっており、前期から16ポイント減少した。

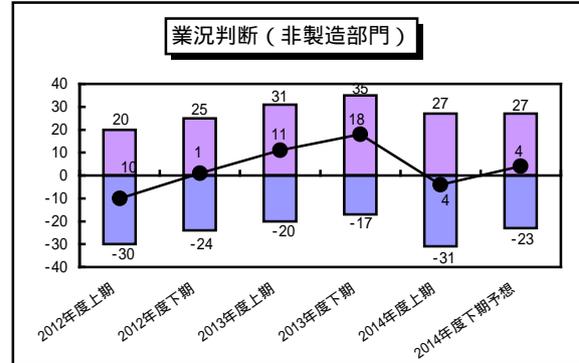
[業種別]

好転超 農業、一般機械、電気機械、印刷、建設業、
輸送機械、食料品

悪化超 木材・木製品、水産業、紙・パルプ

[下期見通 DI] 24(「好転」37、「悪化」13)で
1ポイント増加の予想。

(2) 非製造部門



[上期 DI] 4(「好転」27、「悪化」31)となっており、前期から22ポイント減少した。

[業種別]

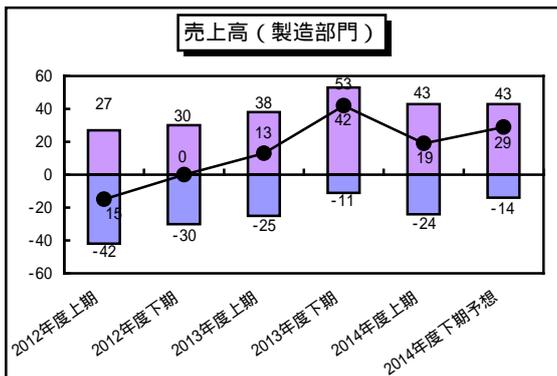
好転超 飲食業、海運業、宿泊業、不動産業

悪化超 小売業、医療、卸売業、福祉

[下期見通 DI] 4(「好転」27、「悪化」23)で
8ポイント増加の予想。

2. 売上高

(1) 製造部門



[上期 DI] 19(「増加」43、「減少」24)となっており、前期から23ポイント減少した。

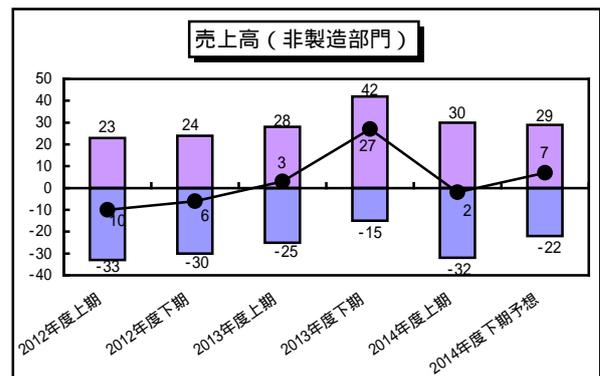
[業種別]

増加超 農業、一般機械、食料品、電気機械、建設業、
紙・パルプ、輸送機械

減少超 木材・木製品、水産業、窯業・土石

[下期見通 DI] 29(「増加」43、「減少」14)で
10ポイント増加の予想。

(2) 非製造部門



[上期 DI] 2(「増加」30、「減少」32)となっており、前期から29ポイント減少した。

[業種別]

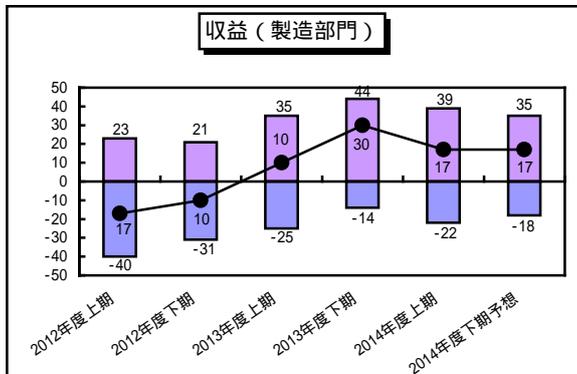
増加超 飲食業、宿泊業、海運業

減少超 医療、小売業、卸売業

[下期見通 DI] 7(「増加」29、「減少」22)で
9ポイント増加の予想。

3. 収益

(1) 製造部門



[上期 DI] 17(「増加」39、「減少」22)となっており、前期から13ポイント減少した。

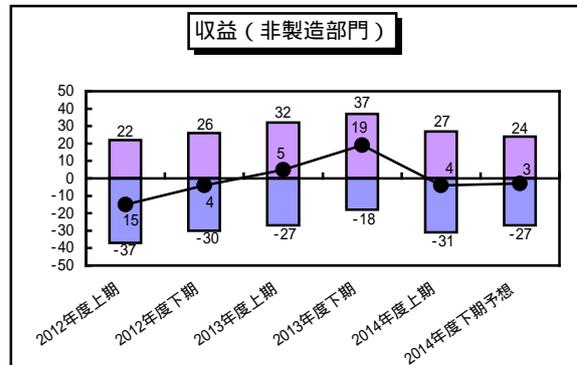
[業種別]

増加超 一般機械、農業、印刷、建設業、食料品

減少超 水産業、木材・木製品、紙・パルプ

[下期見通 DI] 17(「増加」35、「減少」18)でポイントの増減なしの予想。

(2) 非製造部門



[上期 DI] 4(「増加」27、「減少」31)となっており、前期から23ポイント減少した。

[業種別]

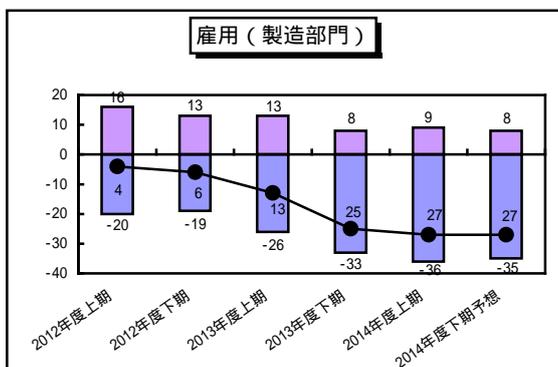
増加超 海運業、飲食業、陸運業、宿泊業

減少超 小売業、卸売業、医療、福祉

[下期見通 DI] 3(「増加」24、「減少」27)で1ポイント増加の予想。

4. 雇用

(1) 製造部門



[上期 DI] 27(「過剰」9、「不足」36)となっており、前期と比べ不足感が強まった。

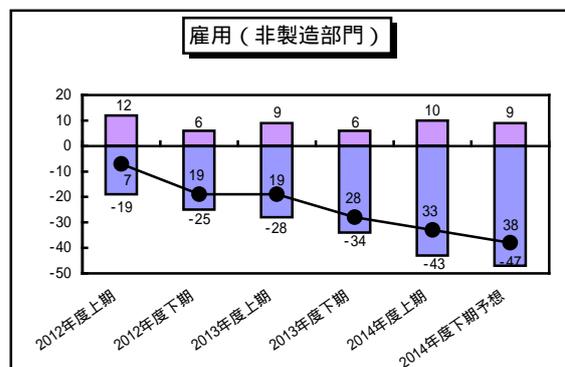
[業種別]

過剰超 木材・木製品、電気機械、紙・パルプ、輸送機械

不足超 建設業、窯業・土石、農業、食料品、水産業、一般機械

[下期見通 DI] 27(「過剰」8、「不足」35)で、引き続き不足する予想。

(2) 非製造部門



[上期 DI] 33(「過剰」10、「不足」43)となっており、前期と比べ不足感が強まった。

[業種別]

過剰超 なし

不足超 海運業、陸運業、福祉、飲食業、宿泊業、医療、不動産業、小売業、卸売業

[下期見通 DI] 38(「過剰」9、「不足」47)で、引き続き不足する予想。

5. 経営上の問題点

< 図表7 経営上の問題点 >

		売上不振	製品・商品安	原材料高	人手不足	人手過剰	人件費高	設備不足	設備過剰	金利負担の増加	資金繰り難	人件費を除く経費の増加	在庫過剰	受注・販売競争の激化	環境対策	円相場	原油価格	後継者	海外品との競合	品質管理	社員高齢化	その他
2009年度	上期	21	7	5	4	3	7	2	1	4	7	4	1	17	2	3	4	3	1	3	-	2
	下期	17	9	8	4	2	9	2	1	3	6	4	2	15	3	3	4	4	1	3	-	1
2010年度	上期	18	8	6	5	2	7	2	1	3	6	5	1	17	2	4	3	3	2	3	-	2
	下期	14	6	14	4	1	7	3	0	3	5	6	1	13	2	4	10	4	1	2	-	2
2011年度	上期	15	8	9	7	1	7	4	0	3	5	5	1	15	2	4	5	4	2	3	-	1
	下期	12	7	11	7	1	6	3	1	2	4	5	1	15	2	5	11	3	1	4	-	1
2012年度	上期	15	7	6	7	1	7	2	0	3	5	6	1	17	2	5	6	4	2	3	-	1
	下期	12	6	9	8	1	8	3	1	2	5	5	1	14	2	6	8	4	1	3	-	1
2013年度	上期	10	5	11	10	1	9	3	0	2	4	6	1	14	1	5	8	4	1	3	-	1
	下期	9	5	11	11	1	8	2	0	2	3	6	1	11	2	4	7	4	0	3	10	1
2014年度	上期	9	3	9	14	1	6	2	1	2	3	8	1	12	1	4	7	5	1	2	9	1

第1位「人手不足」、第2位「受注・販売競争の激化」、第3位「原材料高」、第4位「社員高齢化」、第5位「売上不振」であった。「人手不足」が13.7%（前回比+2.4ポイント）で、前回調査に引き続き第1位となった。

上位5つの問題点の構成比が高い業種（上位5業種）は以下のとおりである。

「人手不足」13.7%・・・福祉（34.8%）陸運業（25.0%）海運業（22.1%）飲食業（20.8%）
不動産業（16.7%）

「受注・販売競争の激化」11.6%・・・木材・木製品（25.0%）金属製品（25.0%）建設業（20.0%）
小売業（19.3%）卸売業（16.5%）

「原材料高」8.9%・・・宿泊業（30.0%）水産業（25.0%）紙・パルプ（22.2%）
食料品（20.0%）飲食業（16.7%）

「社員高齢化」8.8%・・・不動産業（16.7%）海運業（14.7%）木材・木製品（12.5%）陸運業（11.4%）
建設業（11.3%）

「売上不振」8.5%・・・紙・パルプ（16.7%）小売業（15.7%）飲食業（12.5%）金属製品（12.5%）
木材・木製品（12.5%）

おわりに

- ・ 2014 年度上期の業況判断 DI は悪化した。
- ・ 2014 年度下期の業況は、2014 年度上期に比べて小幅ながらも改善すると予想している。2014 年度上期は消費税率引上げによる反動が大きかったが、その反動が徐々に和らいでいくものと思われる。
- ・ 2013 年度上期より、製造部門が非製造部門よりも、業況・売上高・収益の 3 項目において好転・増加している。2014 年度上期では、製造部門と非製造部門のそれら項目における DI の差は、いずれも 20 超となっている。
- ・ 2013 年度下期に引き続き、雇用の不足が目立つ。愛媛県内の人口減少・少子高齢化が予測される中、社員の高齢化などによる人手不足が経営上の問題としても懸念される。
- ・ 今後も業種毎に情報収集に努め、愛媛県内景気の動向を注視していく。

以 上